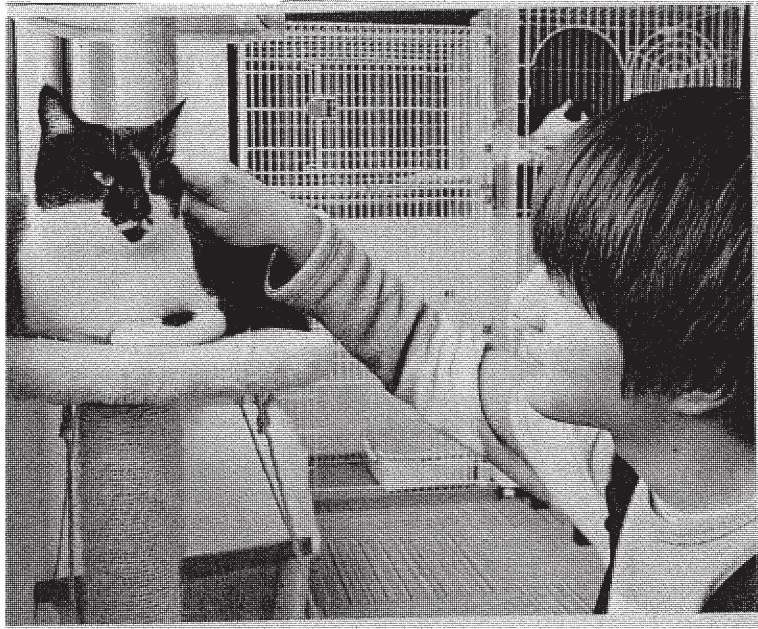


猫エイズ見捨てない

猫免疫不全症候群(猫エイズ)を発症させる猫免疫不全ウイルス(FIV)に感染したキャリア猫への対応が変化している。盛岡市保健所では数年前まで即日処分していたが、保護と里親探しを開始。同市菜園の里親募集型猫カフェもりねこを運営するNPO法人もりねこ(工藤幸枝理事長)は専用の保護シェルターを開設し、譲渡につなげている。キャリア猫を守る動きは県外でも広がっており、関係者は住民への啓発に力を入れている。



盛岡市保健所やNPO法人もりねこ(盛岡)

保護、譲渡、啓発へ力

もりねこが人居するビル5階で一般公開しているシェルターは、キャリア猫20匹余りが暮らす。このころと喉を鳴らしたり、気ままに室内を歩き回る姿は普通の猫と変わらない。月に延べ50人ほどが見学に訪れ、引き取りも検討している。

シェルターは2017年1月に開設し、これまで各地の保健所や飼い主から寄せられた51匹を保護、25匹を譲渡してきた。獣医師を招いて猫エイズの講演会を開くなど、啓発にも取り組んでいる。

同保健所は譲渡先の保護団体などの検査負担を軽減するため14年ごろから譲渡対象となり得る猫へのFIV検査を実施している。16年からはキャリア猫も譲渡対象とした。16年度は検査した14匹のうち4匹、17年度(今月19日現在)は37匹のうち3匹がキャリア猫だった。病気を明らかにし、飼い方の説明をした上で、これまでに2匹を個人に

つている。全国6カ所で猫カフェを経営するネコリパブリック(岐阜市、仲真麻花代表取締役)は複数の店舗にキャリア猫用の部屋を設けており、東京中野店はキャリア猫専用のカフェだ。

盛岡市西松園の松園動物病院の山手寛嗣院長は「ウイルスを与えない▽妊娠やけんかなど体が弱ることをさせない▽発症のきっかけとなる風邪や歯周病を予防」などに注意して飼えば発症せず天寿を全うすることもできると指摘。感染拡大を防ぐため完全に室内で飼うよう呼び掛ける。

しかし、県内で保護猫のFIV検査をしている施設は少なく、感染状況は把握しきれていない。住民の理解も十分とは言えず、引き取り手は少ない。もりねこなど保護団体の収容能力は既にぎりぎりだ。同保健所の岩崎さき子主任獣医師は「全ての猫に幸せになる権利がある。エイズだからと見捨てず、感染を広げないために正しい知識を広めたい」と話す。

猫エイズ けんかによる体液接触や母子感染などで広がるFIVによって発症する諸症状。2、4年またはそれ以上とされる潜伏期間は目立った症状がないが、発症すると免疫力が低下し、病气やけがが